

東邦看護のさらなる発展をめざして

Toward the Further Development of Toho Nursing

東邦看護学会 理事長
岸 恵美子

2020年の1月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中の人々の生命や健康を脅かし、さまざまな行動制限など生活様式を変化させました。日本においては、2023年5月には、2類相当から5類へと変更されること、マスクの着用についても、今後は個人の判断に委ねられる方向であることが示されました。まだ収束したわけではありませんが、国民の生命を守ることにご尽力いただいた皆様の日々の活動に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

ウィズコロナの時代から、ポストコロナの時代へとよいよ進んでいくことになります。これまで対面での交流ができなかった海外の協定校とも対面での交流を再開し、東邦大学としてグローバル化をさらに推進していくことが求められます。新型コロナウイルス感染症対応での多くの知見を活かし、東邦の理念である、「自然、生命、人間」の教えを常に念頭に置きながら、大自然の中に身を置き、謙虚に生きることが必要なのではないのでしょうか。

さて本学会の前身である東邦大学看護研究会は、東邦看護の連携と質の向上を目指して平成13年12月に発足し、10年後に、更なる向上を目指して、「研究会」から「学会」へと進化を遂げました。年1回の学術集会は、特別講演、シンポジウム、研究発表などとおして、会員の研究能力の向上や情報交換・交流の場となっております。

今後、質の高い医療を実現するためには、地域内で医療が完結できるシステム「地域完結型医療」の構築が必要であり、地域の医療機関が機能分化・連携を図り、地域全体で切れ目なく必要な医療を提供する体制を整備することが重要です。個々の患者のニーズにきめ細やかに対応するためにも、保健・医療・福祉の強固な連携体制を構築し、様々な面から包括的に患者を支援することが看護職に求められています。

現在、全国に学術団体は多数あり、看護においても同様ですが、東邦看護学会が身近にあることを誇りに思います。学会をもっていることには、2つの意味があると考えます。一つ目は、「私たちの学会」として会員の交流をはかり実践を振り返る機会とすることで、お互いに切磋琢磨してより良い看護の実践を目指していけることです。二つ目は、「東邦看護の発信の拠点」とし、個人の持っている知識や経験を個人のものにしておくだけでなく多くの人に発信し、評価を受けながら看護の向上をめざすことです。東邦の看護を外へ発信することで、看護を通して対話ができ、新たな気づきにつながり、看護実践の向上につながると考えます。私たちが看護の課題として取り組んでいることは、多くの看護者にも共通の課題であり、そのような課題に研究や実践として取り組み公表することで、さらなる看護の発展に貢献できます。

東邦看護学会の目的は、「会員相互の研鑽と交流をはかり、看護の質の向上をめざし保健・医療・福祉に貢献すること」と謳われています。研究は、日々の実践の中に潜むテーマを追求していく科学的活動です。「心によりそう看護」を具現化し、研究成果や看護実践として発信していきましょう。

東邦看護学会は、これからも看護実践に基づく研究を行い、実践に役立つ仕組みを可視化し、知見を積み重ね、さらに看護実践と教育を高めていくことに寄与する学会でありたいと思います。医療センターと大学を軸に、多くの看護に関わる方々と語り合い、ともに新しい時代の看護のあり方を探求し、東邦看護学会を発展させてまいりたいと思います。今後とも本学会にご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2023年3月吉日